

令和3年度第3回小牧市民健康づくり推進協議会（書面開催）記録

- 1 開催期間 令和3年2月15日(金)令和3年2月26日(金)
- 2 開催方法 書面により各委員から意見を聴取
- 3 委員 森雅典 高野健市 三輪雅一 林芳樹 三輪貴彦
飯田資浩 木全勝彦 小島英嗣 山田勇 荒井洋子
林順子 青山恵史 谷田貝将典 木村隆 中川宣芳
西尾朋子
- 4 議題
(1) 健康情報データからみる小牧市の健康課題について
(2) 令和3年度以降の小牧市民健康づくり推進協議会について
- 5 資料
- 6 委員意見
(1) 健康情報データからみる小牧市の健康課題について

【森委員】

- ・健康情報データからどのグループが未治療かがよくわかり、働きかけるターゲットが絞りやすいと思います。
- ・保健指導についての分析がないためわかりませんが、「特定保健指導」の有効性はどの程度か、把握できるとよいと思います。

【高野委員】

- ・外出等の減少により、肥満傾向、糖尿病の悪化、筋力低下、フレイル状態化が少しずつ増加していると感じます。
病気になる前にはあるいは要支援のうちに利用できる、運動・リハビリ・食事指導教室の総合施設は検討できないでしょうか。

【三輪(雅)委員】

- ・特定健診を主管している国保担当の方々が、健康課題を進めていくにあたっては、これまで指導従事に携わっていた保健センターの人材の有効活用が大切かと思います。縦割り行政が弊害とならないようにしてほしいと思います。
- ・対策としては、医師会員各位への働きかけが重要と考えます。

【林(芳)委員】

- ・成人病（高血圧症、高脂血症、糖尿病）を減らすためには、内科医（小牧市内の医師）、特にそれぞれの専門医とともに市が

早期介入していく必要があります、その手立てをともに模索してゆくべきと考えます。現実的には、医師そのもののさらなる介入が求められると思います。介入には、保健師だけでなく医師も参加しチームを作って病気の指導をしてゆくべきかとも考えます。

- ・健診の結果から導かれる病気予備群の集団に対し、強く介入すべきではないかとも思います。
- ・自殺の問題を提起したいと思います。特に小中高の（全国）自殺者は近々のデータで 479 人と聞きます。また、小牧も 4 % と多いのをどう考えていくのでしょうか。

【三輪（貴）委員】

- ・本市はがん死亡率が高いと知りました。乳がん、子宮がんなどの婦人科系がんの健診受診率は本市はあいかわらず低いレベルにあります。より一層の受診勧奨をお願いできればと思います。

【飯田委員】

- ・フレイル対策について、フレイル対策とは要介護者を増やさず健康寿命を延伸させることだと認識しております。
- ・20 本以上歯の残っている人に比べて、9 本以下しか歯が残っていない人は 15 倍要介護者になるリスクが高まると言われています。

長期的には歯を失わないように。幼年期からの正しい歯磨き指導が大事になり、天寿を全うするまでの切れ目の無い歯科健診が重要だと思います。また、短期的にはフレイルを起こさないようにプレフレイルの時期から早期に発見しやすいオーラルフレイル対策が極めて重要と考えます。できれば後期高齢者健診の質問票に小牧市独自としてオーラルフレイルのセルフチェック票を付け加えて頂きたく存じます。

また、実践への支援として、口や下の動きをスムーズにする体操も取り入れて頂きたくご意見申し上げます。

- ・令和 3 年 4 月 1 日より小牧市歯と口腔の健康づくり推進条例が施行されますが、条例の中にも健康寿命延伸のためにはオーラルフレイル対策の重要性が謳ってございますのでこれも参考に

していただければ幸いです。

【小島委員】

- ・フレイル対策について、地元企業との連携によるフレイルチェック事業は、市民への普及・啓発を促進する取組みとして期待できると思います。
- ・疾病への対策について、協会けんぽとの健康情報データの共有に関して、具体的な進捗があれば教えていただきたいです。

【山田委員】

- ・高齢者のフレイル対策について、高齢者が自立して生きがいのある生活を送るためには、元気で活動できる健康寿命を、平均寿命に少しでも近づけることが大切であり、そのキーポイントとなるのが、フレイル対策であると考えます。しかしながら、フレイル対策そのことについて、多くの高齢者は理解というか認識が薄いのが実情です。フレイル対策とはなにか。なぜ必要なのか。なにをどうすればよいのか。こういったことを、行政の事業計画をもってわかりやすく示し、広く周知する必要があります。「広報こまき」だけでなく、たとえば「小牧市生涯学習のまちづくり出前講座」において、しかるべき講座を設定し、根気よく実施していくことも、一つの方策と考えられます。

【荒井委員】

- ・啓発活動を推進し、市民に健康管理の大切さを訴求、健診受診の促進に努めることが重要と考えます。

【林(順)委員】

- ・最近では近所でも、家で介護が出来なくて施設に入る人が多くなっています。どうしても施設に入ると寝たきりになりやすくなります。以前、私たちの会でも出前講座で日常生活のチェックをして頂きました。フレイルチェック事業が開催されるのですが、機会があれば受けたいと思います。

【木村委員】

- ・小牧市の健康課題(死因)について、自殺の割合が主要な6死因の中で、4番目になっており、愛知県や全国と比べても高い割合となっています。自殺については、今年度コロナ禍で、重要な健康課題にあがっていますし、市として自殺対策の計画も策

定されていますが、それと関連した取り組み等、何か考えられていますか。

- ・市民全体の健康づくりを考える場合、職域を含めた健康づくり施策の推進は重要だと思いますので、難しい部分もあると思いますが、今後の取り組みを期待しています。
- ・同時に、将来を担う子どもたちへの健康教育も重要だと考えます。学校教育の中でも取り組まれていると思いますが、うまく連携していく方法も検討していただけたらと思います。

【西尾委員】

- ・フレイルとはどのような意味であるのかを広く知ってもらうには、フレイルチェック項目と共に広報に載せたり地区の健康展、出前講座等の折に紹介して関心をもってもらう事だと思います。自分の口から食べるという当たり前のことがとっても大切な事で、口腔ケアの必要性もセットで伝えていけたらと思います。

(2) 令和3年度以降の小牧市民健康づくり推進協議会について

① 委員構成について

承認する	承認しない
14名	2名

② 意見

【高野委員】

糖尿病教育を受けている、保健師・看護師の参画はどうでしょうか。

【林(芳)委員】

おおむね理解しますが、医師の人数は高血圧等の専門医、高脂血症の専門医、糖尿病の専門医の意見は必要と思うので、2人→3人にしてはどうかと思います。

【飯田委員】

企業団体関係者の選定方法は、検討する必要があると考えます。

【山田委員】

小牧市民健康づくり推進協議会が、次年度以降の健康づくりの施策として、生活習慣病予防、高齢者のフレイル対策などについて

て、職域を含めた体制を構築し推進していくうえで、協議会の構成委員には適切な関係者が組織される必要があると考えます。